

# 大鹿スケッチ

— 第38号 —  
2013年 12月  
〈 発信者 〉  
前志満 くみ  
〈 提供 〉  
旅舎 右馬允

今日はみぞれ交じりの雨が降るオオシカ谷です。赤石岳はすっかりと雪に覆われ、雪がこぼれおちそうな曇り空の時などは空と溶け込みその存在が宇宙一体となっているかのようです。

この季節は、春も夏に採りためた植物の標本や果球や石などの整理をしています。立体的だった植物たちは平面世界(二次元)の住人です。だからこそ見えてくる美しい世界もあります。植物の同定基準となるアウトラインや葉の裏や茎の所に出てくる特徴などを観察しながらデータ

を保存、整理していきます。植物によって葉緑素や花の色素を残している個体もありその標本に出会った時は目が覚める思いです。オンシーズンには特に意識もしませんが目から飛び込んでくる自然界の色も生きるスパイスなのだなと感じます。今年歩いた野山を思い返しながら追想散歩。

また、樹木の果球のカタチもひととき目を引きまします。特に好きなのは虫に寄生された果球。虫は寄生した果球の遺伝子に影響を与えるらしく、ちよつと異なるカタチをしています。これも虫のひとつの表現と考えるのです。「取りつかれると本来のカタチを留めない」もしくは留めておくことができない…人間界にもよ

くみられる現象です。心あたりはありませんか?



僕はハイタカ。  
三日に大鹿村の中学校舎にぶつかってしばらく治療をしてもらっていました。お陰さまで怪我も治って二七日に空に帰れました。夢中で獲物を追いかけるのもいいけど、衝突には気をつけないとね。人間の皆さんも師走だからといって忙しくて、ぶつからないように注意してね。



霜月祭りツアー  
御案内させていだ  
きました。



南信州の冬の風物詩  
霜月祭りツアーに四名  
様をご案内させて頂いた  
できました。

飯田市上村、南信濃(遠山郷)に古くから伝わる「霜月まつり」は、清和天皇の時代に宮廷で行われた祭事を模した湯立てが、ほぼ原形のまま伝承されているといわれています。今回は南信濃水沢の八幡様へ。合併前は村社であったこと

から住民の皆さんがなるとお年取りの準備が進んでいく様子。一方畑では引き続き桑の千艇や農作物の整理をしています。雪の残る第、このツアー参加への締め切りとさせていただきます。

**大鹿 HeatBeat**  
～大鹿の人々～ 第34回  
稲谷 正 さん (87)  
季節ごとの風景と共に大鹿人の生活を紹介します。



二六日紙谷さんを訪ねると早くもお正月飾りが軒下に飾られていました。玄関にはもち米をバケツ一杯にひやかしてあります。着実に準備が進んで三七までご予約をお願いいたします(一二月二七日現在空室あり)訪れてみてのお楽しみ♪



右馬允では、七日のお泊まりを一緒に楽しむことができます。おこもりツアーへの送迎付き。訪れてみてのお楽しみ♪

新年☆伝統のお祭りへのお誘い  
長野県最古といわれる建造物「福徳寺」(大鹿村大河原上蔵)の伝統のお祭り、「おこもり」ツアーへのお誘い。毎年一月七日の夜にしか御開帳されない有難いご本尊様は、「陽見出会い」(霜月祭り食)の「さんまめずのお薬師さま」として地域の方が守り継いでいます。

霜月祭りは夜通し行われるお祭りで見どころが夜明け前です。ちよつとハードな祭りにもかかわらず観光客に人気の遠山郷の代名詞。夕方四時頃から神事が行われるのですが、つ休憩をとって、何をどうい順番に食べるのか、ということも事細かに神社ごとときたりがあります。今年にはたまたまお祭り地元の友人と出会った。霜月祭り食の「さんまめず」なるものを口にするのができました。何百年という間、祭事中に力をつけるため、体を温めるために食べられてきた一品だと思つて感復がされていること、その作成年が平安時代までさかのぼるといふお話です。奥山に南北朝の法師様といわれているのかは、実際の訪れてみてのお楽しみ♪

これまで何回か霜月祭りには足を運んでいますが今年には「地鎮め」もステップが印象に残りました。舞踊もヨーガも大地に対しての関係性を基調に体を整え、鍛え、練習していきます。身近な祭りの形式も「大地」と交信していくことから始まるのが面白いと感じました。「大地」があつて「空」があるという世界で、何を受け取つて何を表現していくか…私たちがとても壮大なテーマの中に生活しているのかもしれない。さて、二〇一三年も終わろうとしています。あなたにとって今年はどうな年でしたか?私はスロースタートでしたが後半でグツと加速し新しい気付きや出会いがいろいろとあり最終的にはそれなりに充実した年でした。来る年の世界の平穏を大鹿の地で祈念しております。どなた様もよいお年をお迎え下さいませ。